

氏 名	吉村 知穂	
学 位 の 種 類	博士（医学）	
学 位 記 番 号	第 5640 号	
学位授与年月日	平成 23 年 3 月 24 日	
学位授与の要件	学位規則第 4 条第 1 項	
学 位 論 文 名	非定型うつ病を併存した社交不安障害患者の臨床像	
論文審査委員	主 査 教 授 切池 信夫	副 査 教 授 塩見 進
	副 査 教 授 竹内 一秀	

論 文 内 容 の 要 旨

【目的】

社交不安障害は、他の不安障害や大うつ病障害との併存が多く、特に大うつ病性障害の併存は高率である。大うつ病性障害を併存すると、診断も難しくなり、治療意欲が低下するなど治療面においても配慮が必要である。また最近では、大うつ病性障害で非定型の特徴を呈する患者が多く、その診断と治療がさらに難しいことが指摘されている。しかし、その臨床像についての報告は少ない。そこで社交不安障害患者において、非定型うつ病を併存した患者の臨床特徴について検討した。

【対象と方法】

2006 年 4 月から 2010 年 4 月までに大阪市立大学医学部附属病院神経精神科外来を受診し、社交不安障害（Social Anxiety Disorder；SAD）と診断された女性 58 例を対象とした。診断には半構造化面接である Structured Clinical Interview (SCID)-I, II を使用した。自殺未遂、自傷行為、万引き、性的乱脈、親からの行き過ぎた体罰（身体的虐待）の有無についても半構造化面接によって聴取した。これらの対象を非定型うつ病群、うつ病群、うつ病を併存しない群に分け、その臨床特徴を比較した。

【結果】

SAD 女性患者 58 例のうち 39 例（67%）に大うつ病エピソードを併存しており、39 例のうち 18 例（46%）が非定型の特徴を有していた。これらの患者の全例において SAD 発症が大うつ病エピソード発症に先行していた。非定型の特徴を有する群は、大うつ病エピソードの発症年齢が有意に若く、自殺未遂と境界性パーソナリティ障害の併存が有意に高率であった。

【結論】

社交不安障害の女性患者では、非定型うつ病を併存すると境界性パーソナリティ障害の併存や自殺未遂の率が高まることが示唆された。SAD 患者に大うつ病性エピソードを伴う場合は、その治療において自殺企図に対する注意が必要である。また SAD の症状だけでなく、境界性パーソナリティ障害とに共通してみられる自己評価の低さに対する治療が必要であり、今後これらの観点を配慮した治療の検討が必要であると考えられた。

論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

社交不安障害は、他の不安障害や大うつ病障害との併存が多く、特に大うつ病性障害の併存は高率である。大うつ病性障害を併存すると、診断も難しくなり、治療意欲が低下するなど治療面においても配慮が必要である。また最近では、大うつ病性障害で非定型の特徴を呈する患者が多く、その診断と治療がさらに難しいことが指摘されている。しかし、その臨床像についての報告は少ない。そこで本研究では、社交不安障害患者で非定型うつ病を併存した患者の臨床特徴について検討した。

対象は、2006 年 4 月から 2010 年 4 月までに大阪市立大学医学部附属病院神経精神科外来を受診し、社交不安障害（Social Anxiety Disorder；SAD）と診断された女性 58 例とした。診断には半構造化面接である Structured Clinical Interview (SCID)-I, II を使用した。自殺未遂、自傷行為、万引き、性的乱脈、親からの行き過ぎた体罰（身体的虐待）の有無についても半構造化面接によって聴取した。これらの患者を非定型うつ病群、うつ病群、うつ病を併存しない群に分け、その臨床諸特徴を比較した。

社交不安障害女性患者 58 例のうち 39 例 (67%) に大うつ病エピソードを併存しており, 39 例のうち 18 例 (46%) が非定型の特徴を有していた. これらの患者の全例において社交不安障害発症が大うつ病エピソード発症に先行していた. 非定型の特徴を有する群は, 大うつ病エピソードの発症年齢が有意に低く, 自殺未遂と境界性パーソナリティ障害の併存が有意に高率であった.

社交不安障害の女性患者で非定型うつ病を併存すると, 境界性パーソナリティ障害の併存や自殺未遂の率が高まることが示唆された. そして, その治療において自殺企図に対する配慮が必要であると考えられた. さらに社交不安障害の症状だけでなく, 境界性パーソナリティ障害と共通してみられる自己評価の低さに対するアプローチが必要であり, 今後これらの観点を配慮した治療法の検討が必要であると考えられた.

以上の研究は, 社交不安障害で非定型うつ病を併存する患者の臨床特徴を明らかにしたものであり, 今後, 社交不安障害患の臨床に寄与する点は少なくないものと考えられた. よって本研究者は博士(医学) の学位を授与されるに値するものと判定された.